

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と共に各ユニットで支援の目標を立て実践している。	事業所の理念は事務所に掲示し年度始めに話し合いを行い職員間で共有し、家族にも伝え実践につなげている。その他に各ユニットごとの目標を決め、休憩室に掲示し日々のケアに取り組んでいる。理念にそぐわない言動が職員に見られた時はユニットリーダー、管理者が助言をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はできていないが町会のチラシは毎月いただいている。祭りなどの際は参加したり事業所にも回っていただいている。	事業所として自治会に加入し自治会費を納め、回覧板も回っている。地域の情報のお知らせを頂き、八剱神社の秋祭りに参加し、出店なども出るので利用者も楽しみにしている。また、地域のどんど焼きにも出かけている。小学校の音楽会に招待され、また、児童がホームに来訪して歌などを披露し折り紙などで利用者とは交流している。フラダンス、腹話術等のボランティアが来訪していたがコロナ禍で中止となっており再開を望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々に認知症介護の相談などしている旨を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料を使って運営状況の説明を行っている。頂いた意見は職員会議で検討し運営に活かしている。	例年であれば複合施設のホールで区長、民生委員、広域連合介護保険課職員、市高齢者福祉課職員、市介護何でも相談員、地区交番所長、施設職員の出席で定期的に開催している。現在はコロナ禍のため書面での開催となり利用者状況、職員状況、事故報告、防災関連、行事計画などの報告を書面として纏め参加メンバーに送り意見を伺いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加いただき、事業所の実情を把握していただいている。行政参集会議、研修会にも積極的に参加している。	運営推進会議以外に代表者が市の窓口で事故報告をしたり相談をし、ホームの空き状況の連絡など情報提供も行っている。更新時の介護認定調査は調査員が来訪しホームで行い職員が対応している。市主催の研修会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員会議で資料を使って確認している。玄関の施錠については防犯上及び事故防止の理由から施錠をしている。	身体拘束等適正化委員会が設置され職員で検討し拘束をしないケアに取り組んでいる。人感センサーが必要な方が若干名おり、家族の了解の下、フロア会議や職員会議で話し合いを重ね、解除に向けて取り組んでいる。外出傾向の強い方には調理や仕事をお願いし、また、散歩に出掛け気分転換をしていただいている。	

グループホームとよだ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては職員会議で確認をし、虐待が行なわれないよう職員同士でも確認しあい、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修会への参加をしている。必要に応じて、成年後見人制度の活用を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず契約書、重要事項説明書の読み合わせを行っている。また疑問、質問にも応じ、理解の上契約をしている。料金改定がある場合はその都度同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談に関する窓口を玄関および重要事項説明書に記載している。面会票に自由意見欄を設けている。	三分の二の利用者は意見や要望を表出できる。家族の来訪は週1回～月1回ほどの方が多く、来訪時には意見を聞くように努めている。家族向けの面会表に意見欄を設けているが記入は少ないという。家族に行事への参加を呼びかけ一緒に食事などする機会も作っている。毎月、家族の元に利用者の状況や写真の入った詳細なお便りが送られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表者と代表者でつくる労使委員会を設置し運営についての意見交換を行っている。また個別でも対応している。	年度始めに年間目標を立て、月1回のフロア会議、3ヶ月に1回のリーダー会議を開催し職員の意見・提案を出し合っている。管理者は職員各自の目標から力を引き出したいと考えている。職員の面談は各リーダーが行い、管理者が助言をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規則を作成し、環境、条件の整備をしている。昇給については勤続年数、勤務実績を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での役割、経験年数などを考慮し外部研修に参加を行っている。外部講師を招き事業所内でも研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所、グループホーム連絡会に加入し、研修会などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人様と面会し、サービスへの要望や困りごとの相談の機会を設けている。面会は介護支援専門員の他、介護職員も同行している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず施設を見学していただき、雰囲気やサービス内容を理解していただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を聞き、ケアカンファレンスでその時必要な支援の検討をしている。必要に応じ、主治医の意見も聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理や後かたづけ、清掃を行っている。かいものや散歩などの外出時には、危険のない範囲で見守りをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族での外出などを呼びかけ外食や散歩、通院付き添いをお願いしている。また行事の参加できる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族などの面会や外出などをさせていただくようお願いしている。	月1回、民生委員の訪問があり、利用者と話をされている。地域の行事に参加し、職員と一緒に馴染みのスーパーや商店に出かけ、馴染みの関係の継続に努めている。家族の協力を得て家に帰る方、美容院に出掛ける方など関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操など、利用者同士で関われる機会を持ち孤立しない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、電話相談など受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で話された希望や意向を記録し、カンファレンスで把握し共有するよう努めている。	利用者の三分の二の方は思いを伝えることができ職員と一緒に洋服選びや飲みものを選んでいいる。表出できない方については家族から生活歴、嗜好等を聴き、本人本位の支援を行っている。普段何も言われない方も1対1になった時に不満を漏らすことがあり、タブレットのケース記録に入力し、申し送り時やフロア会議で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接などで本人、家族の話や聞くとともに、日常会話から今までの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、気になる事などを共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、三か月に一度ユニットで介護計画の見直しを行って。家族の希望、必要に応じ主治医からも意見を頂いている。	職員一人が一名の利用者を担当している。担当者は日常の様子を記入しユニットのカンファレンス・7モニタリングに参加し、日々の申し送りでも様子を伝えている。家族からも意見・要望を聞き、ケアマネージャーを中心に介護計画の作成が行われている。通常は3ヶ月毎に見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきなどはiPad内の申し送り欄を活用し、職員で共有し、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して、職員、家族などで話し合い、必要に応じてサービス提供を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、活用は課題としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携を取りながら、必要に応じ、ご家族にも受診の付き添いをお願いしながら支援している。必要な場合は往診もお願いしている。	最近まで入居前からのかかりつけ医を継続していた利用者がいたが、現在は三分の二の利用者が協力医による月1回の往診を受け、その他の方は家族や職員の付き添い支援で協力医で受診している。訪問看護ステーションから看護師が月2回来訪しており、利用者の健康管理を行っている。歯科については月2回の往診を利用する方がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し24時間体制を確保している。また月2回の定期訪問をお願いし、バイタル測定や医療的な相談助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室と情報交換をし、退院後の支援にむけた関係づくりをしている。必要に応じ退院カンファレンスにも出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を決め、重要事項説明書にも記載している。家族協力医などとも話し合いながら終末期ケアを進めている。	重度化した場合の指針があり利用契約時に説明を行っている。今年5件の看取りを経験したという。最期をホームでとの家族の希望で、終末期ケアに取り組んでいる。終末期を迎えた時は家族、主治医、看護師、管理者で話し合い、職員はフロア会議で看取りケアの話をしチームとして支援に取り組んでおり、家族は毎日ホームに来られていたという。家族からもお礼の言葉を頂き、利用者も最後のお別れをしたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはフローチャートマニュアルを作り、掲示し職員会でも確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を実地し、手順を確認している。有事の際の食料品、水などの備蓄も行っている。また災害の際は地域の方々へ避難場所の提供も考えている。	年2回複合施設合同で消防署の協力を得て避難訓練・通報訓練を行っている。利用者全員参加で玄関と非常口から中庭に避難している。地域との協力体制を築き、災害の際は地域の方々の避難場所として提供するように考えている。食糧品、水などの備蓄は3日分用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様、周りの方が不快に思うような言葉かけにならないよう気を付けつけている。プライバシーに配慮した居場所作りにも努めている。	人格を尊重し、利用者の誇りプライバシーを傷つけない対応や声がけに努めている。利用者の目線に合わせ声がけをし、入浴介助は利用者の希望に沿い同性介助に心がけている。不適切な対応や気づきがあった時はフロア会議で話し合い、リーダー・管理者からも助言をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1の関わりの中で答えやすいように質問を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操の参加など、ご本人の意向を尊重し無理強いしないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に衣類を用意していただいている。ご自分でお気に入りの服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けはできる範囲で手伝っていただいている。見えるところで作っているため、食事に対して意欲的になっている。	全介助の方が四分之一で他の方は自力で摂取でき、半数以上の方が常食で、ミキサー・きざみ食の方が数名いる。献立は今までのものを参考にし、利用者の希望を聞き作っている。商店から食材が届くが、足りない物は利用者と買い物に出かけている。利用者には無理強いすることなく食事作りや片付けをできる範囲でお願いし、職員と一緒に食事を摂っている。施設の畑から収穫した野菜が食卓に上がっており、敬老会やクリスマス会の時には特別食が出され、利用者にも喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を細かく刻んだり、ミキサーをかけたりにして個々にあった食べやすい工夫をしている。とろみをつけるなど摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをするよう声掛けを行っている。必要に応じて介助し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に考えて、定時での声掛け及びご本人様の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。夜間のみオムツ使用等状態に合わせている。	利用者の半数が全介助で、布パンツの方が若干名、オムツの方が数名、夜間リハビリパンツからオムツにする方もいる。排泄チェック表を活用し定時に声がけし、個別の誘導も行い、トイレで排泄できるよう支援している。立位が難しい方についても職員二人で介助し、トイレで排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	iPadに排便に関する記録を残し、職員間で共有している。牛乳など便秘に効く食材も提供している。必要に応じ主治医に相談し、内服薬などで調整している。毎日体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に入浴できるように、入浴の時間は調整している。個浴の湯舟に入るのが困難な場合2人介助にて入浴支援を行っている。入浴のタイミングは気分や体調に合わせている。	職員二人で介助する方が半数弱で、その他の方は一部介助で、週2回入浴されている。入浴拒否の方には無理強いせず、時間を変えたり職員を変え、また、日をずらして入浴していただいている。入浴剤を使用し菖蒲湯、ゆず湯等も行っている。湯船に浸かり「気持ちいいね！」と言いながら入られているという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休息できる時間もあるが、就寝を強制せず、その時の状況に合わせた支援を行っている。布団干しやシーツ交換は定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにある薬の説明書を職員は必ず目を通すようにしている。薬が変わったり変化があった場合は、申し送り欄に記載し口頭でも申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアの協力により催しものを行っている。また季節に合わせた行事を積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺を散歩している。車を使ってのドライブも行っている。また、ご家族にお願いし外出を行っている。	外出時、自力歩行の利用者が半数弱、シルバーカー使用の方が数名、車椅子の方が半数という状況である。年間行事計画表があり蘭玉を作りどんど焼きに向いたり、お花見、いちご狩りやぶどう狩り、諏訪湖一周ドライブ等に出掛けている。日常的には施設周辺を散歩し、中庭にテーブルを出してお昼を食べ外気浴もしている。米作りや畑での野菜作りで収穫を楽しんでいる。新型コロナ禍で外出についても制約されており、早期の収束が待たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族、ご本人と相談の上管理し月1回出納状況を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はないため電話をかけたいと希望がある場合は事務所の電話を使っていたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節を取り入れた装飾を施し、行事で撮った写真を掲示している。エアコンの風が当たらないよう布を張り工夫している。	玄関を挟んで左右に同じ造りのユニットがあり壁で仕切れれドアで行き来ができる。食堂兼ホールは天窓から光が入り明るい。運動会が最近行われ、世界の国旗が飾られ、その時の利用者の様子がわかる写真、敬老会、誕生日会などの写真が沢山壁に貼られており、利用者が楽しめた様子が伝わってきた。ホールにはテレビやソファが置かれ、新聞を読んだりテレビを見たりと、利用者は思い思いに過ごされている。訪問時、男性の利用者が柿の皮むきをし吊るし柿作りをされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、廊下には一人掛けの椅子を置き、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真を飾ったり、なじみの家具を置いている。	居室にはベット、収納庫、エアコンが備え付けられている。自宅より持ち込まれた馴染みのタンスやちゃぶ台が置かれ、賞状や行事の写真、家族写真等が飾られている。窓からは広々とした田畑の景色を観ることができ、利用者が思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるようにマークも併せて表記したり、水道にはお湯、水等の表示を自分でできるように工夫している。		